

学園タイムス

Sagaseishigakuen times



Vol.3

■発行日：平成 25 年 11 月 16 日
■発行元：社会福祉法人 佐賀整肢学園
■発行者：理事長 中尾清一郎
■編集：法人広報誌編集委員

～ 神崎市コスモス ～
JR 神崎駅



社会福祉法人 人を支える 生活を支える

佐賀整肢学園

SAGA SEISHI GAKUEN Since 1960

巻頭言

佐賀整肢学園 こども発達医療センター
センター長

窪田 秀明



原稿依頼を受けてこの文章を書き始めました。こども発達医療センターには以前から「はばたけ」と言う広報誌があり今年に複数回発行されています。こちらに時々寄稿していますが、肢体不自由児と重症心身障害児者の施設という特徴がありその特徴に合わせて、折々の嬉しいことや問題点などを書き連ねてきました。一方、社会福祉法人全体の広報誌となるとはて何を題材にと戸惑っている状態です。

こども発達医療センターに赴任してから早や12年となりました。干支が一回りする長さです。同じ施設での仕事はここが最も長くなりました。この間、最初は医療職としての整形外科医として佐賀整肢学園に加わり病院機能の延長線上に自分の仕事があるのだと理解し身体を動かしていましたが、施設長を兼ねることで次第に佐賀整肢学園における福祉の重要性を実感するようになりました。社会福祉法人としての佐賀整肢学園は、福祉関連の業務と職員数の方が遙かに医療関連のそれを上回っています。医療施設は2つですが、福祉施設は6施設あります。この12年間で医療の世界は治療法自体も変わりましたが、関連の法律や規則が大幅に変更となり医師だけでなく看護師、リハスタッフ、医事課職員など関連の医療職はその対応に大変でした。同じく福祉の世界に置いても、介護保険の導入より激変の時代となり、措置費から支援費へ、自立支援法の成立、更

に改定、はたまた総合福祉法の成立と制度の土台が変化して対応に大変です。

このように医療職と福祉職は、ともに職種は違えども色々な経験を積みながら障害を持つ利用者をそれぞれの面から支えています。この「学園タイムズ」の発刊は法人外への広報が第一義ではありましようが、法人内の職員間で、それぞれ所属する固有の施設を越えて、利用者のために福祉と医療の融合を目指す一助としての役割も大でありましよう。職員の皆さんには、所属の施設で不足するものを、ハードに限らずソフトのノウハウまで含めてお互いにやりくりできるようにそれぞれの施設の特性と機能を理解し利用する際の、ガイドブックとして役立てて貰いたいものです。

継続することは何ごととも大変ですが、始めたからには、職員全体のため、引いては利用者のために、発刊担当の皆さんは頑張ってください。次回巻頭言の依頼を受けるまでに、この学園タイムズが大きく成長して佐賀整肢学園にとってなくてはならないものとなっていることを願っております。

各種報告

平成25年度第2回理事会・評議員会（法人本部）

平成25年10月24日（木）、こども発達医療センター会議室にて、今年度第2回目の理事会・評議員会が開催されました。

評議員会では、「社会福祉法人佐賀整肢学園定款の一部改正」及び「平成25年度佐賀整肢学園補正予算（案）」について説明し、同意されました。引き続き開催された理事会では、「社会福祉法人佐賀整肢学園建築工事に係る設計監理業務委託契約締結の承認について」、「在宅サポートセンターかんざき清流苑施設長選任等について」など、22議案が審議され原案通り承認されました。また協議事項として、「こども発達医療センター増築・改修工事計画」、「からつ医療福祉センター隣接及び近隣地の取得について」など3つの件について協議が行われました。



在宅サポートセンターかんざき清流苑の竣工記念式典

平成25年3月に在宅サポートセンターの新築工事を着工いたしました。建築工事も順調に施工頂き、平成25年10月25日に竣工記念式典を開催致しました。当日は、行政、地域、法人の関係者等の多数のご臨席を賜りました。

また、11月1日よりサービス付き高齢者向け住宅(23室)の開所とともに、デイサービスセンター(定員40名)、居宅介護支援事業所を移転し、新たな環境で営業を行っております。

今後も、在宅で生活される高齢者の方々が、地域で安心して暮らすことができるよう、職員一同サービスの向上に努める所存でありますので、ご支援・ご協力をお願い申し上げます。

<お問い合わせ先> 在宅サポートセンターかんざき清流苑
電話 0952-52-8915 FAX 0952-52-8710
サービス付き高齢者向け住宅

(担当者 谷口、江里口)

デイサービスセンター (担当者: 江里口、福成)

居宅介護支援事業所 (担当者: 城島、奥相)



事業所 TOPICS

こども発達医療センター

SVCキャンプ

こども発達医療センターではSVC（佐賀整肢学園ボランティアクラブ）活動を行っています。これは、事業としての療育とは別に職員のボランティア活動団体として、野球観戦、サッカー観戦、人形劇やコンサート鑑賞、クリスマスプレゼントの購入など、年間を通して様々な活動を行っているものです。

今回、その活動の一環として利用者さんと八女市の「ゆめたちばなビレッジ」で一泊のキャンプを実施しました。戸外での宿泊でキャンプファイヤーやピザ作りなど、利用者の方々も貴重な体験ができ、多くの笑顔が見られました。

またこのキャンプでは利用者、職員が寝食を共にすることで、きずなが深まることを実感できるものとなっている、毎年みなさんが楽しみにしている一大イベントです。

今後も様々な障がいを抱える利用者の方々に対応していくために、SVCの協力によりいろいろな活動を企画し、共に楽しんでいけるようにと思っています。



オークス

ビアパーティー

夏場の暑さを吹き飛ばすよう毎年ビアパーティーを開催しています。

牛カルビ、豚バラ、とり皮、鳥もも等の焼き鳥、某有名店のおいしい餃子を堪能しました。ビールはもちろんサーバーからの生ビールです。また、ボランティアの方が、電子ピアノの生演奏やフラダンスを披露していただき、利用者の方は大変喜ばれていました。アルコールを飲めない方は、ノンアルコールビールのゼリーを給食より作っていただき、久々のビールに味に酔いしていました。ビアパーティーの後には、花火大会を行い、21mのナイヤガラを初披露。夏の風物詩をみなさん楽しませていました。



かんざき清流苑

敬老会

9月14日に第15回かんざき清流苑敬老会が開催されました。

清流苑にはなんと106歳のご利用者がおられ、神埼市長様の訪問を大変喜ばれており、他にも100歳を超える方もいらっしゃいます。皆様高齢ではありますが、笑顔で毎日を楽しくお過ごしされ、私たち職員はその笑顔に癒され、元気を頂いております。ボランティアでは迫力ある神舞太鼓と神埼清明高校の合唱部の演奏や福祉部による水戸黄門の寸劇を披露して頂き、拍手喝采と笑い声で盛り上がりました。ご利用者の皆様お元気にお過ごし下さい。



くんちパーティー

からつ医療福祉センター

10月26日にくんちパーティーが開催されました。アルトンと久里双水園には、唐津くんちの14台ある曳き山車のひとつである、職員手作りの鯛山が登場し、利用者と職員が曳き移動しました。皆さん勇ましく、鯛山を曳いていました。

また唐津くんち独特のおおやしを職員が披露されました。会場内では、生のおやはしの心地よい音色が響き渡り、会場全体で唐津くんちの雰囲気ひたることができました。

食事では、曳き山14台が描かれたケーキや豪華なお弁当もふるまわれ、利用者の皆さんは、唐津の秋の風物詩を堪能されていました。



地域美化活動

かんざき日の隈寮



日の隈寮では利用者の体力づくりと地域貢献を目的として、毎月1回地域美化活動を実施しています。活動内容は、地域の公民館清掃、城原川土手沿いの清掃活動、近隣の除草作業等多岐にわたります。利用者の体力等に応じてコースを分け、全利用者と職員で取り組んでいます。

地域美化活動を行うことにより地域の方からも感謝され、利用者の方のやりがいにも繋がっているようです。

今後も活動を継続し、地域貢献に努めていきたいと思えます。

わいわい開設2周年祭

佐賀向陽園・わいわい

平成25年7月1日に、おかげ様で開設2周年を迎える事ができました。7月7日に第2回開設記念祭を開催し、余興で外部ボランティアによるよさこいや職員による寸劇を行い、利用者の皆様に大変喜んでいただきました。

今後は、ご利用者も加齢に伴い、認知症の方が増えると思われる為、予防のためにも認知症の対応に特化したデイサービス「グループデイ」の事業開始が急務と思っています。

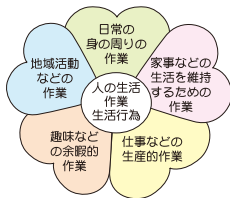
利用者の皆様にご満足いただけるケアの提供のために職員一丸となって頑張っておりますのでどうぞよろしくお願い致します。



学園仕事図鑑 (佐賀整肢学園で働く様々な職種を紹介します)

Vol.1 作業療法士

作業が人を健康にする



人の営みは作業・生活行為の連続で成り立っている

作業療法士とは国家資格であるリハビリテーション専門職のひとつです。

作業療法士の「作業」とは右の図のような、人が生活する上での生活行為を構成する要素で、この作業を健康な状態に戻すことが、作業療法士の役割です。

佐賀整肢学園では、主に脳性まひ、ダウン症、発達障害などに対する、小児のリハビリを中心に頭部外傷や脊髄性疾患など様々な対象者の方々に、作業療法士が関わっています。こどもさんのリハビリが中心ですので、作業療法の内容は、ランドセルを背負う練習や食事のためのスプーンの練習や、学校の体育の授業にむけての縄跳びや鉄棒の練習などこどもさんの生活課題が中心になります。

佐賀整肢学園の作業療法士数

こども発達医療センター 16名
からつ医療福祉センター 12名
オークス 1名

この人に密着!!

佐賀整肢学園 からつ医療福祉センター

作業療法士 **井手 啓介** さん

作業療法士 経験年数9年目



作業療法士の楽しいところ

佐賀整肢学園に就職してあつという間に9年目、ご家族様の子どもさんへの温かいまなざしと子どもたちの純粋な笑顔に何度も元気を貰いながらここまでやってきました。対象者（または家族）の生活をいかに楽しく、明るく過ごせるかを考えていく中で、「あなたに出会えてよかった」と声をかけてもらえる機会があり、そのような言葉を頂く度に作業療法士になって良かったと感じています。

作業療法士の大変なところ

対象者の生活を支えていく中で沢山の方（家族、医師、看護師、介護士、学校の先生など）とコミュニケーションをとりながら、同じ考えのもとで支援していくことが重要とされていますが、その連携が大変だと感じています。作業療法士の役割や考えをしっかりと分かりやすく伝えていくことが今後の課題です。

作業療法士 井手さんの一日

8:30～ 朝のミーティング

8:45～ 朝の掃除

9:00～12:00 作業療法

12:30～13:30 昼休憩

13:00～17:30 作業療法

17:30～ 勤務終了

患者さんやその家族の悩みに合わせて構成される井手さんの作業療法の内容は様々です。トランポリン、ブランコ、塗り絵など、一見遊んでいるように見える内容は、どれもマヒや発達の遅れを回復するための巧みな方法です。

カルテ記入や会議、リハビリに使う道具作りなど治療以外の仕事にも多くの時間があてられます。



カルテ記載

一日中びしりつまったリハビリスケジュールの合間をぬって患者さんのカルテ記載を行います。

その他の業務

勉強会

日々進歩する治療技術。毎日の勉強が欠かせません。担当するケースを同僚にみてもらいアドバイスをもらう症例検討も大切な勉強です。

クローズアップ

かんざき日の隈寮職員互助会活動

日の隈寮の職員互助会では、毎年恒例となっている職員とその家族を対象としたバーベキュー & ホテル見学会や、魚釣り、ゴルフ、マラソン、スノーボードなど様々な活動を行っています。

6月22日には、大分県佐伯市にある江里口施設長のお奨めスポットで、釣り大会を開催しました。期待に胸を膨らませながら、前日に懇親会を開催し、楽しい一時を過ごしました。大会当日は、天候にも恵まれ、マダイやシマアジ、ヒラマサ等が釣り上げられるたびに歓声が上がリ、大いに盛り上がりました。まずまずの釣果で、皆おいしい魚のお土産を持ち帰ることができました。

今年度の新たな活動として日の隈マラソン部を発足し、9月より城原川の遊歩道で練習を行っています。10月13日に久留米市で開かれた筑後川マラソン大会では、10名の職員が参加し、当法人のシンボルマークをあしらった派手なユニフォームを身にまとい、10キロコースを完走しました。この大会を皮切りに富士町健康マラソン大会等、各地で開催される大会に参加し、来年4月に行われるさが桜マラソンに出場予定です。フルマラソン完走を目標に、日々練習に励んでいます。応援よろしくお願ひします。



デイサービスセンターかんざき清流苑新築移転

11月1日在宅サポートセンターかんざき清流苑の開所によりデイサービスセンターかんざき清流苑も、新たなスタートを切ることができました。

早速、開所日の1日には鳥栖市より、ボランティア団体の「おどり座」様に来所頂きまして開所日に相応しく、すばらしい踊りをご披露いただきました。

今後もより一層のサービスの質の向上に努め、今までのサービスはもちろんのこと、既設では出来づかったプログラム等も多数取り入れ、高齢者の方々が在宅での暮らしを楽しみながら継続していけるよう、またサービス付き高齢者向け住宅の入居者の方々にも楽しくやすらぎのある生活を送って頂けるようデイサービス職員一同、日々努力して参りたいと思いますので、今後ともよろしくお願ひいたします。



■ 海外研修報告 かんざき日の隈寮 入所サービス課係長 真崎小百合

今回の海外研修は、私にとって思いもよらないものでした。上司に誘っていただき応募したものの、運良く海外研修に参加できるという吉報を聞いた時は信じられませんでした。

この研修は財団法人社会福祉試験センター主催の研修で、全国から集った福祉施設関係者16名がヨーロッパ(デンマーク、ドイツ)の障害者福祉関係の行政機関、各種団体、施設等を15日間に渡り視察、調査するというものです。

一人で九州から東京まで行くことさえ初めての私がほとんどヨーロッパまでいけるのか、そして、そこで初めて寝食をともにする団員の方々と15日間うまく過ごすことができるのか、不安と期待で当日を迎えました。成田空港に集合したあとはそんな心配は吹き飛んでしまいました。団長はじめ団員の方々皆さんがとても優しくホッとしたのを思い出します。そのあとは、期待が大きくなりすぎて自分を我ながらげんきな人間だなと感じおかしくもありました。

現地に着いたあとは、食べ物、習慣、文化、すべてにおいて日本と驚くことも多かったのですが、不思議と無理なく過ごせ、馴染んでいくことに逆に驚きました。国や人種が違っても人類という枠、世界、地球という枠でくれば違和感を感じなくても当然かもしれないと感じました。研修中にまず感じたことはそれでした。研修先のスタッフの方々も同じ人間で、同じ福祉という業界の中に身をおき、活躍・奮闘されている姿を拝見していくうちに、遠く離れた知らないところに、大げさかもしれませんが自分の仲間、同士がいるということに感激を覚え心強く思いました。このことは、視察団の他の団員の方々についても同様でした。

視察先ではどこも清掃が行き届き、異臭がしないばかりか、綺麗にインテリアコーディネートされ、良い香りがしていました。また、利用者の方が身ざれいにアクセサリーをつけ、メイクをし、おしゃれな格好をされていたことは、非常に印象深いものでした。スタッフの方々も明るく、熱心で自分の仕事にプライドを持って取り組んでおられ、利用者の方に対する一個人としてのパリアフリーな対応は、国の背景に豊かさを感じました。国の財政、社会保障の違いは私達ではどうしようもないところではありますが、見習うべきスタンスであると感じました。

今回の視察研修には、多くの方々の方添えがなくては実現しなかったと感じています。15日間の不在を許していただき、推して下さった上司、職員の方々。慣れない土地で力強い存在であった旅行会社のスタッフの方、現地通訳の方々。そして、最後にはお別れするのがさみしくならなかった15日間も一緒に過ごして下さった団員の方々。すべての方々に感謝に堪えない気持ちで一杯です。

この貴重な体験は自分の仕事であらためて考える良い機会になりました。広い視野でいろんな視点から見ていくことを日頃の業務の中で実践していきたいと感じました。



前列右端が筆者

■ 第37回九州地区救護施設職員研究大会 かんざき日の隈寮 入所サービス課生活支援リーダー 田中 貴大

平成25年7月4日～5日の2日間、大分県別府市にて第37回九州地区救護施設職員研究大会が開催されました。今回の大会は全体会で分科会のテーマごとに各施設の取り組みについて発表するというものでした。私が参加した分科会のテーマは「地域生活支援への取り組み」についてであったため、上司とも相談し、内容を「かんざき日の隈寮における就労支援活動について」とすることとなりました。

かんざき日の隈寮では平成20年に佐賀県より経営移譲を受けてから入所利用者の地域移行、社会的自立を進める観点から就労支援に力を入れてきました。経営移譲前は2名であった就労状況からスタートし、平成25年7月現在では一般企業への常勤パート就労者が5名、非常勤パートが2名、就労継続支援B型事業所への就労者が3名、法人施設への定期就労が週2日、その他不定期の除草作業や外壁・水路等の清掃作業が行われるようになりました。

発表では、ただ就労者の数を増やすだけでなく、利用者に対するフォローアップ体制についても詳しく説明を行いました。まずは利用者の就労をしたいとの意思を尊重し、一緒に就労先を探すところから始まり履歴書の書き方・面接への付き添い、就労が決まった後は就労状況の確認、就労先との情報交換等を行いました。その他に就労者の意欲を維持・継続させるために定期的な食事会や、就労者の都合に合わせて日帰り旅行の休日での開催等を行いました。幸い、現在では自己都合による就労の中断はあっていません。また、就労支援を行うことで職員にもプラスの影響があることも報告しました。就労が継続し、利用者の方がいきいきと就労先に出かけて行くのを見ることは支援する職員にも非常に励みとなります。ただ働いて賃金を得ることだけでなく、施設全体で就労を支援することで利用者にも職員にもいい結果が得られ、好循環が生まれていることは見逃さない点であると思います。

発表に対する各施設の反響は大きく、質疑応答の時間以外でも呼び止められて質問をされる程でした。各施設とも就労先の確保に苦慮されていることが窺え、日の隈寮の取り組みに非常に興味を持たれたようでした。

最後に、発表後の表彰式では優秀賞を受賞し、施設のアピールをすることが非常によかったですと思います。これからも利用者や地域から必要とされる施設を目指し、日々研鑽を行っていきたく思います。



日韓交流事業視察報告



サジク総合社会福祉館

ある栄光学園が1997年開館し16年目となる総合福祉施設です。総合社会福祉館では、①65歳以上の在宅老人を対象とした老人福祉センター、②地域の低所得家庭の子供を支援する地域児童センター、③外国籍女性と韓国男性が結婚して家族になった多文化家族を支援する多文化家族支援センター、④成人障害者の就労を支援する就労リハビリセンターなど、全部で9ヶ所の付設機関を運営しています。スタッフ総数は約200名であり、社会福祉士、保育士、精神保健社会福祉士、言語治療士、アート（美術）治療士などが勤務しています。

視察では、サジク総合福祉館およびトンメク老人福祉館、ササンク障害者福祉館、青少年総合ボランティアセンターの4施設を見学し、サジク総合福祉館の概要をご案内いただきました。こどもさんからお年寄りまでの通所中心の事業形態でしたが、私たちの法人にはない取り組みを知ることができ、様々な刺激を受けることができました。

また、具体的な交流事業についての協議では、今年の12月にサジク側からの視察団10名が来訪されることや、今後の継続的な職員同士の相互交流について話し合いが行われました。また両法人間の記念品交換を行い、持参した韓国語の「指さし会話帳」を介した会話でしたが、話も弾み、和やかな雰囲気のもと交流視察を終えることができました。

今後は、12月にサジク側からの視察団10名の受け入れを皮切りに、来年度から、毎年、佐賀整肢学園の職員をサジク福祉館へ研修派遣する予定になっております。2泊3日程度の交流研修を考えておりますので、ぜひこの海外交流事業に興味をもってください、研修に参加されて自己研鑽の場として利用されることを期待しています。

佐賀整肢学園では、職員の幅広い見識の醸成を図ることを目的に、海外の福祉施設と交流事業を行い、職員が相互に行き来する交流研修事業を推進することになりました。

そこで、今から3年前に、法人内の佐賀向陽園を訪問いただいた韓国釜山市の、社稷（サジク）総合社会福祉館と、交流へむけた調整を行ってきました。この程、事態が進展し、寺崎法人事務局長を団長とする視察団6名を派遣し、交流事業に関する視察を行ってきました。

社稷（サジク）総合社会福祉館は、新羅（しんら）大学の運営法人で



日本では見かけない福祉ランドリー車両



交流会での記念品交換



サジク職員と視察団

局長随想

「懐かしい夜行列車」

11月7日付の新聞記事の中に、青い塗装の寝台特急「ブルートレイン」が2015年度末に全面廃止されるとの報道がなされていた。これまでも、新幹線の開通に及ぶに従い、懐かしいふるさとの地名を名称に冠した東京行きの夜行列車等が廃止されていったが、そのたびにさびしい思いになったものである。

今でこそ佐賀から東京、大阪への出張は飛行機か、新幹線利用が主流になっているが、昭和の時代の上京といえば、夜行列車を使っただけの旅が定道であった。寝台特急はまだ良いほうで、4人掛けの席に肩や膝を接するように対面して座り、「お宅はどちらまで行かれますか？」の言葉をきっかけに、初対面の見知らぬ客と酒を酌み交わしながら長い鉄道の旅をともにしたものである。懐が温かいときは、食堂車で看板まで粘って、話を弾ませたりした。

しかし、今でも夜行列車という言葉に接すると、心傷めながら思いを馳せるのがある夜に出会った乗客のその後である。多分東京出張のときで、昭和50年代の季節は夏ではなかったかと思う。乗り合わせた客同士で話が弾んでいた我々のところに、ステテコにタボシャツ姿の中年男性がやって来て「この辺に学生さんたちが居たはずだけど、見当たらないが知らないか。」と言われた。しかし辺りを見渡してもそれらしい乗客は居なかった。狐につままれたような表情のその方に事情を聞いてみると、その方は途中停車駅のホームの売店でものを買って、列車に戻ってみると一緒に居た筈の学生たちがいないとのことであった。そこで、その方の行き先を訊ねたら、なんと逆方向の九州方面である。その方は、ホームに降りられて、上り下り反対側の列車に乗ってしまったのだ。まさに着の身着のままの状態で途方にくれておられたが、その後の旅行はどうされたのか、無事我が家にとり着かれたのか、今でも気になる夜行列車にまつわる懐かしい思い出である。

ボランティア・施設見学・実習生受け入れ

(平成25年6月1日～平成25年8月31日)

ボランティア 貴重なお時間を頂きありがとうございます



【こども発達医療センター】	九電友の会 様 親和会 様
【オークス】	坂井ツキエ様(書道教室)・坂井ツキ子様(書道教室) 田村静二様(絵画教室) 川原アヤ子様(生花教室)・大島京子様(生花教室) 木下千恵子様(音楽教室) 吉富大樹様(陶芸教室) 田中京子様(ピアノ・ティーンピアノ演奏)
【かんざき清流苑】	ヒューマンドレミ様 むつごろうの会様 中原マンドリン様 鶴乃会様 音楽愛好会様 ひまわりの会様 竹の会様 水琴の会様
【からつ医療福祉センター】	折尾幸子様(ハン教室) 川打恒子様(書道教室) 辰野真由美様(民謡教室) 田村静二様(絵画教室) 無津呂正様(陶芸教室)
【かんざき日の隈寮】	山崎節子様(日舞クラブ) 三好富美子様(生花クラブ) 森本清子様(身だしなみクラブ) 原千賀子様(身だしなみクラブ) 西村百美様(エアロビクスクラブ)
【向陽園・わいわい】	佐賀少年刑務所様(訪問理容)

施設見学 ご訪問ありがとうございました



【こども発達医療センター】	やよいがおか鹿毛病院 様 千早西校区社会福祉協議会 様 岡垣町民生委員児童委員協議会 様 銅路市福祉部、こども保健部 様 麻生生りハビリテーション大学校 様 長崎県福祉保健部障者福祉課 様 佐賀清和高等学校 様 長崎リハビリテーション学院 様 佐賀県立中原特別支援学校 様 唐津看護専門学校 様 佐賀県立三養基高等学校 様
【オークス】	西九州大学(社会福祉学科) 様 21名
【かんざき清流苑】	西九州大学社会福祉援助技術実習見学実習 20名 神埼清明高校 9名 ライフサポート NEO 介護実習 16名 医療福祉専門学校 緑生館 2名 西九州大学社会福祉実習 5名 西九州大学介護福祉実習 1名 西九州大学給食管理実習 2名 神崎中学校職場体験学習 3名
【からつ医療福祉センター】	大川内保育園 様 ひかりが丘保育園 様 福岡市立今津特別支援学校 様 昭和幼稚園 様 唐津特別支援学校 様 伊万里特別支援学校 様 唐津市立外町小学校 様 久原保育園 様 玄海町立直賀中学校 様 唐津市立大志小学校 様
【かんざき日の隈寮】	西九州大学 様 20名 白石町民生委員 様 23名 麻生専門学校 様 5名

実習生受け入れ 今後のご活躍をお祈り致します



【こども発達医療センター】	医療福祉専門学校緑生館 29名 西九州大学 3名 佐賀女子高等学校 4名 柳川リハビリテーション学院 1名 佐賀大学医学部 1名 福岡国際医療福祉学院 2名 大阪保健医療大学 1名 熊本総合医療リハビリテーション学院 1名 佐賀女子短期大学 5名
【オークス】	北陵高校 2名 神埼清明高校 3名 佐賀女子短期大学 4名 金泉中学校 3名
【かんざき清流苑】	西九州大学社会福祉援助技術実習見学実習 20名 神埼清明高校 3名 ライフサポート NEO 介護実習 16名 神埼清明高校 医療福祉専門学校 緑生館 2名 神埼清明高校 5名 西九州大学福祉実習 3名 西九州大学社会福祉実習 2名 西九州大学介護福祉実習 1名 西九州大学給食管理実習 2名 神埼中学校職場体験学習 3名
【からつ医療福祉センター】	神戸学院大学総合リハビリテーション学部作業療法学科 1名 西九州大学リハビリテーション学部理学療法学科 1名、作業療法学科 1名 佐賀県自治修習所 4名 西九州大学生活福祉学科 2名 西九州短期大学部介護福祉学科 1名 伊万里看護学校 30名 福岡国際医療福祉学園理学療法学科 1名 西九州大学社会福祉学科 1名 西九州大学短期大学部 保育学科 2名 佐賀大学 1名
【かんざき日の隈寮】	西九州大学 3名 佐賀学園 1名 西九州大学短期大学部 3名 佐賀大学 1名 神埼中学校 3名
【向陽園・わいわい】	城北中学校 4名 金泉中学校 3名 ジョブシティカレッジ佐賀校 2名

お知らせ

法人内行事予定 (抜粋)

10月		11月		12月	
7日	日帰り旅行A (日の隈)	6日	こどもセンター芋掘り交流会 (日の隈)	2日	イルミネーション点灯式 (からつ)
12日	秋祭り (日の隈)	7日	日帰り旅行B (日の隈)	5日	餅つき会 (清流苑)
19日	体育大会 (からつ) 秋祭り (オークス)	9日	家族会奉仕・交流事業 (からつ)	10日	もちつき大会 (こども・オークス)
23日	総合避難訓練 (こども)	12日	小桜保育園芋掘り交流会 (日の隈)	13日	利用者懇親会 (日の隈)
25日	在宅サポートセンター竣工記念式典内覧会 (清流苑)	14日	七五三お祝い会 (こども)	14日	クリスマス会 (からつ)
26日	くんちパーティー (からつ)	16日	運動会 (清流苑)	17日	クリスマス会 (こども・オークス・清流苑)
27日	秋祭り (こども)	27-28日	互助会旅行 (こども)	19日	もちつき (日の隈)
31日	グランドゴルフ大会 (向陽園)		一泊旅行 (日の隈)	25日	クリスマス会 (日の隈・向陽園・わいわい)
				27日	執務納め式 (清流苑)

編集後記

佐賀整肢学園の広報誌編集委員を担当し今回で3号となりました。いろいろと不慣れなこともあり、なかなか思うように進めることが難しいのですが、より良い読み物を目指していきたいと思えます。

今回の号から「学園仕事図鑑」として、佐賀整肢学園内の様々な職種をクローズアップする企画を掲載しております。法人内の各事業所間でお互いのことを知ってもらうこと、地域の皆様に私たちの仕事を知っていただくこと、福祉を志す皆様に佐賀整肢学園を身近に感じていただければと思います。

これからますます寒くなりますが、法人内で連携をとり、冬を乗り切りたいと思います。広報誌へのご意見ご感想がありましたら、お気軽に法人事務局までお寄せ下さい (K・T)